

体指よこすか

VOL. 10

平成23年4月1日
横須賀市体育指導委員協議会
発行責任者 武 雅 兄

第51回

全国体育指導委員研究協議会

岐阜大会に参加して

会場: 岐阜メモリアルセンターほか

平成22年11月25日(木)～26日(金)の2日間で会場は鶺鴒で有名な長良川の側、岐阜市の岐阜メモリアルセンター(で愛ドーム)を中心に全国の体育指導委員 3,700名が参加して全国体育指導委員研究協議会が開催されました。

本研究協議会は、「体育指導委員のやる気・元気に向けて」～体育指導委員だからできること～の全体テーマのもと、記念講演やシンポジウム、分科会など充実した研修内容となりました。

表彰は、永年に渡り功績のあった方々(文部科学大臣表彰86名、功労者表彰177名、30年勤続表彰261名)のそれぞれの代表者に対し、表彰状及び記念品が授与されました。

記念講演は、福島大学 人間発達文化学類 教授の白石 豊 氏により「体育指導の勘どころ～その技と心」と題して行われました。一流のスポーツ選手たちに30年以上も前からメンタル・トレーニングを取り入れ、日本スポーツ界のメンタル・トレーニングの歴史と共に歩んできた氏は、様々な有名スポーツ選手や著名な監督との交流やエピソードを交え、従来の「罵声→Why→命令→否定命令」型の、指導からの脱却で得られた結果にビデオ等を交えの講演でした。

2日目は、4つの分科会に分かれ、それぞれの会場で熱心な討議が行われました。

〈受賞者一覧〉

●功労者表彰(※敬称略)

和栗 一郎 (公郷)

●30年勤続表彰(※敬称略)

平本 敏行 (追浜) 新井 喜久 (浦郷)

梶山 俊雄 (津久井) 保科 幸男 (津久井)

上條 猛光 (武山) 廣川 省一 (荻野)

私は30年勤続表彰者(横須賀6名・神奈川33名・全国261名)の一人として参加し表彰され、表彰状に添えて30年勤続の記念品として金バッチをいただきました。このバッチは衆議院議員バッチとよく似ていて目立つので襟に付けていると「何のバッチ?」とよく質問されます。この受賞は30年間の地域スポーツ振興活動貢献の褒美として授与されたものと思い、心から喜んでいます。

当日の式典、研修会を通じ全国規模の催事の盛り上がりは国体を平成24年に控えた岐阜県スタッフや各種会場設営等に表れており、初参加の私にとって大変良い経験でした。皆さんも次回ご参加ください。26日の研修後、金華山の岐阜城に登り雄大な長良川の流れと美しい美濃の国を見渡し、織田信長が「今日から此処を岐阜とする」と言ったTVの名シーンを思い浮かべ記念撮影し帰路につきました。

副会長 山田 昭子(栗田学区)

編集委員

ソフトバレーボール研修会②

ひとり一人が自信を深めた研修

2月26日(土)に、追浜にある北体育会館で、審判研修を中心に午前は県ソフトバレーボール連盟の指導、午後は企画研修部の主導で研修をしました。目的は来年度に計画している市内全体への普及と大会に向けての審判力の向上です。

当日は42名が参加され熱心に取り組んでいただきました。その詳細は、午前は事前の申告にもとづき主審・副審・線審に分かれ、なおかつ参加者を2グループに分け、県ソフトバレーボール連盟の方よりきめ細かに指導を受けました。例えば、入場の際の仕方、サーブ権のトスの仕方、ホイッスルの吹き方、判定の仕方・動作などである。

昼食を挟んで、午後は企画研修部主導で実際のゲームも取り入れながら、実践面での研修を約3時間実施した。自分の思った通りには試合は進まず、判定に苦勞をする場面もありましたが、参加者の多くの方が自分の判定に自信を深めた研修会でした。

この研修を踏まえ3月13日(日)にはソフトバレーボール研修③を実施し、大会運営および②の審判研修の成果を見る機会でしたが、みなさまご承知の通り東北地方太平洋沖地震のため中止となりました。しかし、今後も研修会は実施していきますので、より多くの方の参加をお願いいたします。そして横須賀市が健康で明るい町になるように取り組んでいきたいと思っております。



編集次長 林 但(富士見学区)

企画研修部 22 年度総括

目指せ ! 地域スポーツ指導のプロ

武新会長のもと、自立する横須賀市体育指導委員協議会を目指し、21年度・22年度と企画研修部として取り組みをしてきました。企画研修部会の中で、部長・副部長(2名)を3部門に割振り年間を通し、部門別に責任を持ってまとめてきました。

新体制の下で、①主管する事業を円滑に運営するための研修会の開催担当②他都市との交流会開催時に紹介するニュースポーツの種目検討担当③学区大会における種目変更検討担当に分かれ協議するという組織図を確立しました。

とりわけ22年度は事前の4役会議で意思統一を図り、5回の企画研修部会を開催しました。その中で次の3つの事が印象に残りました。

1つ目は、22年度初めての取り組みとして公郷小学校体育館で実施したニュースポーツの体験・研修会には35名もの参加者があり、やはり体育指導委員は体を動かすことが好きなんだな～と感じました。

2つ目は、他都市との交流会(大和市)や県横三ブロック研修会で、ニュースポーツの種目の立案・紹介を担当してきました。

最後の1つは、学区大会の種目の変更に関して、とりえずソフトバレーボールに目標をおき、体育指導委員が自分達で運営するには何が必要かを協議してきました。事業部と連携し23年度の事業の中に、ソフトバレーボールの審判研修や大会を多く盛り込むことにより、審判は勿論大会運営や普及活動に必用なマニュアル作りにも挑戦していくつもりです。

地区別交流会を通し他学区の様子もわかり、自分の学区で事業を計画するとき、多くの仲間がいることを思い出し、協議会を上手く利用し、研修会を通し資質の向上を図ると共に地域において、多くの人が生涯スポーツに親しむことが出来る環境作りを担う地域スポーツ指導のプロ! になろうではありませんか!

副会長 鈴木 貞男(大楠学区)

県体育指導委員大会に参加して

懐かしのトニー・ザイラー

2月11日(祝)に、横浜関内ホールに於いて「平成22年度神奈川県指導委員大会」が977名の参加で盛大に開催されました。

開会式に引き続き、功労者(252名)、感謝状(6名)の表彰式が行われました。横須賀市からは24名が参加し、功労者として15名の方が受賞されました。

今年の講演は、猪谷千春氏の【わがスポーツ人生】の題でお話し頂きました。先生はスポーツではIOC(国際オリンピック委員会)の副会長他数々の関係団体役員でご活躍になりました。先生を一躍有名にした事は、1956年イタリアで開催の第7回冬季オリンピックに於いて男子回転競技で日本人初の銀メダルを獲得した事です。その後50数年間、回転で日本人はメダルを取れていないのです。猪谷氏が銀メダルで金メダルはご存じトニー・ザイラー氏で、その時初の三冠王に輝く大挙をなした時でも有ります。

先生は今年80歳を迎えようとしておりますが、元気なことには驚きです。今でもゴルフで当たれば270ヤードと言い切っていました。

何故猪谷は強かったのかとの話には興味をひかれました。それは人まねでは無い自分独自の技術を身につける、練習、基礎体力をつけ、前向きに最後まで諦めない事と、ステップを踏んだ目標に向かって努力することによって幸運をつかむ事も出来る。わが人生にも通ずる先生の【わがスポーツ人生】の講演は、自分のまだまだ修行の足りなさが身にしみた有意義な一日でした。

〈受賞者一覧〉

●功労者表彰(※敬称略)

畠山 龍雄 (船越)	鈴木 幸子 (汐入)
大野 義子 (汐入)	鈴木 信生 (公郷)
指宿 明博 (平作)	福本 隆志 (走水)
林 但(富士見)	大藤 和男 (田戸)
高橋 正春 (池上)	青柳 毅一 (大津)
諸橋 伸治 (岩戸)	渡部 康男 (明浜)

宮下 光子 (長井) 浅井 みつ江(長井)
押井 秀夫 (鷹取)

編集委員 押井 秀夫(鷹取学区)

第65回三浦半島県下駅伝競走大会 走路員として参加して

第65回三浦半島県下駅伝競走大会が1月16日(日曜日)5区間全長37.045kmで行われました。私たち指導委員は、走路員として選手の安全を第一に臨みました。私は、横須賀アリーナを8時30分出発の輸送バスに乗り、第一区間の走路員として「木古庭陸橋信号」を担当しました。右手に白旗、左手に赤旗を持ち両手を広げて、走路員業務を警察官の指示に従って積極的に行いました。今回は、スタート兼フィニッシュの掛けもちの走路員をはじめ経験しました。私と同じ走路員配置場所No1~No53の走路員の皆さんご苦労様でした。市町村対抗の部10チーム、高等学校等の部6チームが参加して疾風のごとく私の前を通過して行きました。その後輸送バスに乗り、フィニッシュ地点の久里浜小付近にて走路員を行いました。最終5区は、4.85kmの短い区間を、女性ランナーが大きな声を絞りあげて懸命にゴールを目して走りぬけていき全チームが、全長37.045kmを完走しました。スタート地点及びフィニッシュ地点共々、観衆及びギャラリーが少ないと言うよりも、全く誰もいない寂しい限りでした。精進して練習を重ね大会に参加する選手に対して、沿道の心強い励ましの応援体制の構築に期待したいです。

編集委員 小川 榮次(久里浜学区)



県横須賀・三浦フロック研修会 in 潮風アリーナ

平成23年2月20日(日)に、三浦市の潮風アリーナを会場に県横三地区の体育指導委員65名の参加で行われました。

前半は、県立体育センターの米山教子氏を講師に招き、3033運動普及員養成講習会が行われました。運動の概要と効果・実技内容など、自宅でも簡単にできる運動の指導方法を、さまざまなデータを基にして、短時間でしたが要点を明確に話していただき、今後、私たち指導委員が普及活動する時に役立つ貴重な講習会でした。本来、中高年を対象に行われてきた3033運動ですが、最近では、小学生の体力低下を受けて親子でできるメニューが出来ていて時代の変化を感じました。

皆さん、運動のスタートとして無理をしない程度に1日30分、週3回、3カ月継続して実行しては如何ですか。

後半は、4市町対抗の「バウンスボール」実技研修を開催しました。当日は、「バウンスボール」の盛んな逗子の指導委員が中心になって進められました。又、賞品も三浦の地産品で、研修と言うよりも勝負に特化して皆さん良い汗をかいていました。横須賀の体育指導委員の皆さんは、次回の当番幹事が葉山、もしかして優勝は、葉山牛か？優勝目指して頑張ろう！と研修後の情報交換会で盛り上がりました。

今後は、3033運動・バウンスボールの普及の機会を作り、他の指導委員に紹介しながら地域への普及に努めたいと思います。

女子の部 準優勝 地場産キャベツ賞



編集長 石川 輝雄(森崎学区)

生涯スポーツ体力づくり 全国会議2011 in 横浜

2月3日(水)に、横浜ロイヤルパークホテルで開かれた生涯スポーツ・体力づくり全国会議2011に、山田副会長と共に「運営役員」として参加してまいりました。本会議は、生涯スポーツに関係するあらゆる団体・組織の方々が一堂に会して、研究協議や意見交換を行い、相互理解を深める場として昨年から開催されるようになりました。

午前中は、受付として皆さんをお迎えしましたが、午後は秦野市体育指導委員連絡協議会の石田会長がパネリストを務めておりました第2分科会「地域におけるスポーツ活動の今と未来」を覗いてきました。事前申込983名、内体育指導委員110名で、横須賀からはスポーツ指導員8名+体育指導委員1名が参加されていました。予想以上に体育指導委員が多く、テーマも全国体指研究協議会分科会より身近で、分かりやすい内容でした。

会長 武 雅兄(馬堀学区)

平成21・22年度の編集委員の皆様ご苦労様でした。



編集後記

精力的に進めたこの一年間、ポイントを挙げれば新任指導委員研修会、地区別交流会、大和市との交流会、ソフトバレーボール研修会などがあげられます。学区内から市の活動へ目が向けられ始めています。そのような中に東日本大震災が発生しました。被災された皆様にお見舞い申しあげるとともに、亡くなられた皆様に謹んで哀悼の意を表します。

編集次長 林 但(富士見学区)